

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度 (Year)	2020年度	開講期 (Semester)	前期
授業科目名 (Course name)	人間学概論		
担当者 (Instructors)	丸岡 利則, 井上 研	配当年次 (Dividend year)	1
単位数 (Credits)	2	必修・選択 (Required / selection)	必修

## ■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)

本講義は、「人間とは何か」について、人間学という学問からいくつかの観点 (ものの見方) を示すことにある。観点の1つは人間の「発達」と社会性、人間の「健康」のあり方、人間の「存在」の視点から追求すること、2つは、その歴史的な観点から理解すること、3つは、哲学的人間学から、「人間とは何か」に関する根源的な哲学的議論を踏まえながら、授業内でディスカッションを行い、批判的かつ建設的な議論のあり方を模索する。また講義の形態は、2人の教員のオムニバス方式で実施される。

## ■ 授業形態・授業の方法 (Class form)

授業形態 (Class form)	講義
授業の方法 (Class method)	オンライン講義形式で授業を行う。授業の内容に応じて、ICTツールを用いて、ディスカッションおよびグループワークを取り入れる。

## ■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)

回数 (Num)	テーマ (Theme)	内容 (Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	ガイダンスー人間の発達の特性ー遺伝と環境ー	人間が遺伝・環境 (人的・物的・教育・メディア等) との関連で人格形成される意味を理解する。	<input type="checkbox"/>
第2回	「子ども」と「おとな」ー子ども観の変遷ー	「子ども」と「大人」についてより深く理解する。特に、子ども観は時代により、社会の成熟度によって異なっていることを理解する。	<input type="checkbox"/>
第3回	子どもと家族ー家庭教育のゆらぎー	「家族は最小のデモクラシーである」という観点を踏まえ、また、最も人間成長に影響する環境であることを理解し、家族の重要性を理解する。	<input type="checkbox"/>
第4回	ジェンダーの世界ー性差の変化と社会背景ー	ジェンダーについて、地域・文化・教育によるパラダイムの相違点を見ながら、現実問題を理解する。	<input type="checkbox"/>
第5回	教育観の変遷ー学校 (家庭・地域・塾) 作りに向けてー	人間教育の歴史の理解を踏まえて、教育の知識と技術という基本的な内容を理解する。	<input type="checkbox"/>
第6回	江戸時代の養生 (寺子屋は市民教育)	貝原益軒の「養生訓」をテキストにしながら、江戸時代の養生という健康法を理解し、人間教育の重要性等の理解を深める。	<input type="checkbox"/>
第7回	明治時代の健康 (衣食住)	明治時代における健康という知識の普及を健康観からとらえ、衛生、栄養、運動などの観念の導入の歴史から健康の捉え方を理解する。	<input type="checkbox"/>
第8回	第二次世界大戦前後の健康 (世界と日本)	第二次世界大戦前後の窮乏生活のなかでの健康の歴史的な経緯を踏まえ、一般国民と兵士の健康度合いと重視の差について理解する。	<input type="checkbox"/>
第9回	生活習慣と健康 (不運・非情性・当然性=身体を知る)	生活習慣病を食事と運動の関連で見ながら、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの要因について理解する。	<input type="checkbox"/>
第10回	人間と病気 (老・病・死)	元気で当たり前の生活ができているときは気にしない「病」。体、心、自律神経等を含めて病気について理解を深める。	<input type="checkbox"/>
第11回	人間ーこの死すべきものー	人間は誕生から誰もが死に向かって歩み始める。だれしにも対等に死があるものであり、死とは何かについて根源的理解を深める。	<input type="checkbox"/>
第12回	「人間」概念の歴史ー大人・性・健常とはー	人間の概念は、人間を人間学として科学してからスタートしているも、時代環境によって異なっていることを理解する。	<input type="checkbox"/>
第13回	不確定性を生きるー実存ー	不確定性の時代を生きていくこと。実存していくことの意味を理解し、人間社会を確実に歩んでいくことに理解を深める。	<input type="checkbox"/>
第14回	人間と科学技術ー尊厳死・安楽死・脳死等ー	人間の築き上げてきた「科学力」は人間のものに有る。より科学が高度・進歩することにより、安楽死や脳死等についても捉え方が異なってくることを理解する。	<input type="checkbox"/>
第15回	ボーダーと人間ーまとめ	人間学に関するまとめを行う。人間・人間社会・自然社会・宇宙を理解した上で人間生活を考える。	<input type="checkbox"/>

**■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)**

1. 事前学習として、シラバスにかかわる内容と時間・教室を確認しておくこと。(2時間) 2. 事後学習は、自分の生き方・日常生活での過ごし方を振り返ることの読書と実践に努める。(2時間)

**■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)**

毎回提出されたオンライン課題ミニレポートは、添削・採点の上、返却する。

**■授業の到達目標と評価基準(Course goals)**

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	人間らしい生き方を追い求め続けるための知識を探求することによって、幅広いものの見方・考え方ができることを目標として理解を深めることができること。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	人間の命、幸福について理解を深め、人間らしい生き方、心身の健康、統治政治社会、自然環境と人間との関係について理解できること。

**■成績評価(Evaluation method)**

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			15%	85%

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

課題は、毎回の課題ミニレポート、随時の振り返りレポート、随時の自己の意見をまとめた報告書をオンラインによって提出すること

**■テキスト(Textbooks)**

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

**■参考図書(references books)**

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	和辻哲郎 (1934) 『人間の学としての倫理学』岩波書店	
2	藤田健治 (1971) 『哲学的人間学』有斐閣	
3	アルノルト・ゲーレン (1970) 『人間学の歴史』紀伊國屋書店	
4		
5		